（廿五日夕刊）

磐城新聞

休刊日　大祭第一第三日曜日
定價　壹枚二錢　一ケ月五十錢　郵税拾錢
廣告料　（雜報欄一行五十錢　場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所　磐城新聞社
電話五六番

發達過程上における（五）

我國無產政黨運動と

その社會學的認識

報知新聞平支局　榎本紀一

かくして我國無產政黨は勞働農民黨社會民衆黨日本勞農黨日本農民黨の四大勢となつて生れ無產階級の政治的表現ーブルジョアジーの獨占する政治界の分野に分解作用を起しながら進展しつゝあるがこれを要するに我國無產政黨運動をわが國資本主義が飛躍的大發展をとげた歐州大戰前と後の二期に

大別する事が出來るとしたなれば後者は歐州大戰を轉期として我國の社會運動は好況期の經濟的運動は勿論不況期における社會主義乃至は政治運動においても無產者階級が少くとも彼等が意識する共同利害關係に覺醒し無產階級の政治的戰線への進出は劃時代的現象として注目しなければならない事である、而してこれを又單一無產政黨主義にていてみるにこの勞農黨の分裂は果して無產階級のあらゆる諸分子を打つて一丸としそれを一の階級的政黨に結成すべきだと

强調する單一無產政黨主義の崩壞を意味すべきものであらうか否吾々は少くとも無產階級の存在が社會的必然の成果であり無產階級の社會建設が過去に屬するものでなく未來に屬するものである限り單一無產政黨も又過去に屬するものでなく未來に屬するものでそれは現在の現實的勢力から歷史的社會的必然の法則によつて未來の現實へと發展せんとするものであると信ずるものであるわれ等期待もまたかゝつて現實の苦難に精進努力しつゝ未來のより良き社會理想の

完成に歩みながら社會進化の動的變化てふ渦卷く潮流に棹さし彼岸に達せんとする新興勢力の過渡期の姿にそそかれなければならない

（終り）

明日の吉凶

新曆七月廿六日　舊曆六月廿八日

▲一白　利口振りて人の信用を失ひ易き日注意▲二黑　沈着なる時は次第に成功の域に達し得べし▲三碧　進退共に氣の許せぬ日外にありて殊に然り▲四綠　忠言耳に入らず獨斷失敗を繰返し易き日▲五黃　常業には吉なれども新企の事には危險伴ふ▲六白　迷ひて元氣を損す働くに勝りたるなし▲七赤　傾きかけし運水も次第に立直り行くべき日▲八白　進退ともに自由なる日但し口は注意すべし▲九紫　猛威を震ふ時は意外の失敗を招くことあり

講談　血で血を洗ふ（96）

高橋掬太郎創作
布施や八郎揮畫

首級盜まる

『これは、昌康君にはまだお眠み遊ばされずに――』

と清左工門は一禮した

『うむ、兄上の御最期を思ふと眠るどころか今後の事が案ぜられて獨り悲しく思案にくれてゐたが、俄かに騷々しい物音に驚かされた。如何致したのぢや？』

昌康は訝かしげに問ふた

『はツ、只今佛間に怪しの曲者が忍び入りましてござります』

と清左工門が云つた

『ナニ、くせ者が忍び入つたと、して何物か盜み去つたか？』

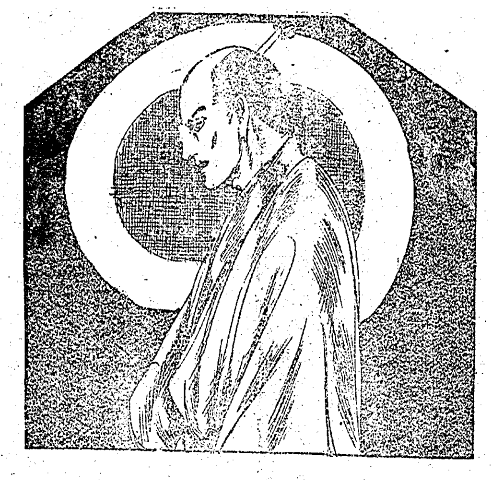
盜みに入つたのか、或は清左工門を狙つて入つたのかそれとも他の目的があつたのが、現場にゐた清左工門にも判斷がつかないのに昌康は何物かを盜みに入つてのを知つてゐたやうな問ひ方であつた。

『幸ひ、一物を得すして逃げたやうでございまする』

『ナニ、一物も得すして逃げたのか、うむ、それは幸せであつた』

と昌康は安心したやうに云つたが、どこか、內心がつかりしたやうな様子が見ゑた。

そこへ庭の向ふから聲をかけて出來た者があつた



『くせ者は逃げたのでござるか』

と殘念さうに云つた。は早間重太夫であつた重太夫も今夜は城中に泊つてゐたのであつた。

『お、早間氏が取逃がして殘念でござつた』

と云ひながら、清左工門は重太夫の様子をそれとなしにじつと見た。

（何んのために、庭の方から出て來たのであらう？）

と清左工門は內心に訝かしく思つたのであつた。そして問ふて見やうかと思つたが考へ直した。

しかし、何んのために御佛間に曲者が忍び込んだのであらう』

と、宿直の侍の一人が訝かしげに云つた。

『さあ――』

と、清左工門は首をひねつた。

『不思儀ぢやのう』

と、昌康も首をひねつた

『主君の御首級を盜みに入つたのでもござるまいか？』

と一人の侍が云つた

『さあ、それは判らぬが主君の御首級を盜んで何んとしやう？』

と重太夫が云つた

『或は、拙者の首を盜みに來たのかも知れぬは』

と、清左工門は笑つた

『まさか――』

と、重太夫は打ち消した

『いや、まさかでござらぬ現に先夜のこと下城の途中松並木で怪しの曲者に狙はれて危うく一命を失ふところでござつた。城中とても物騷千萬、些かの油斷もなり申さぬよ』

と清左工門は態と皮肉を云つて昌康と重太夫の顏をじろりと見た。

『仰せの通り、その様に曲者が忍び入つては御城內とて油斷がなりませぬ。御佛間の宿直は、我々も共に致しませう』

と、侍達は云つた

『然らば、お願ひ申さう』

と、清左工門は一同と共に足を拭いて佛間に戻つた昌康と重太夫もつゞいた。そして佛間に入つて侍の一人が火を點じた時、清左工門は驚きの聲をあげた

『やゝツ……主君の御首級……』

『えッ！』

と、一同も驚いた。見ると正面に安置してあつた首桶が何時の間にか掻き消されたやうに見えなくなつてゐた。

『さては曲者が盜み去つたのか』

と、清左工門は齒がみをして口惜しがつた

『然らば、曲者は一人ではなかつたのであらうか』

と重太夫が顏色を變へた

『えッ！曲者が一人でない

と昌康も顏色を變へた

『一人の曲者は神部清左工門に追はれて逃げたのでござる、その間に別な曲者が忍び入つたものと見ゑる』

と重太夫は地團駄を踏んで云つた

主君の首級が盜み出されたといふので城內は忽ち大騷ぎとなつた

吉田眼科醫院

ホシ胃腸藥
胃腸氣瘡藥
ホシ胃腸藥
星製藥
호시위장약

東京市日本橋區通油町
株式會社　**藤掛商店**

營業品目　絹糸、絹紡績　綿糸、染糸、組紐　漁網糸、人造絹糸　カタン糸、輸出用加工糸　眞綿、其他糸物一式

糸界の羅針盤　糸紐通報　御一報次第直送
電話浪花三五二一番
振替東京三二四〇番

小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方磐城新聞社御出で下さい。委細面談

良品廉賣に勝る商略なし

磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
(久)　釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番　一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり

一度服用して見て
其効能の絶大には誰方も驚く
歷史も信用もある
呼吸器病の家傳靈藥
御藥　**加減清肺湯**を
はい病、ろくまく炎、しんぞう、ぜんそくにて、タンセキ、イキギレ、ドウキ、ネアセ、カルイネツ、頭痛等が幾日も續くお方は……
今すぐ召上れ
發賣元
加減清肺湯　**佐々木商店**
磐城平町公園前

鐵筋コンクリート
鐵骨組立
和洋建築
文化式建築
設計監督
土木、建築、請負業
合資會社
丸三森川組
社長　大森鎭平
東京日本橋南茅場町二〇
電話茅場町66四五二番

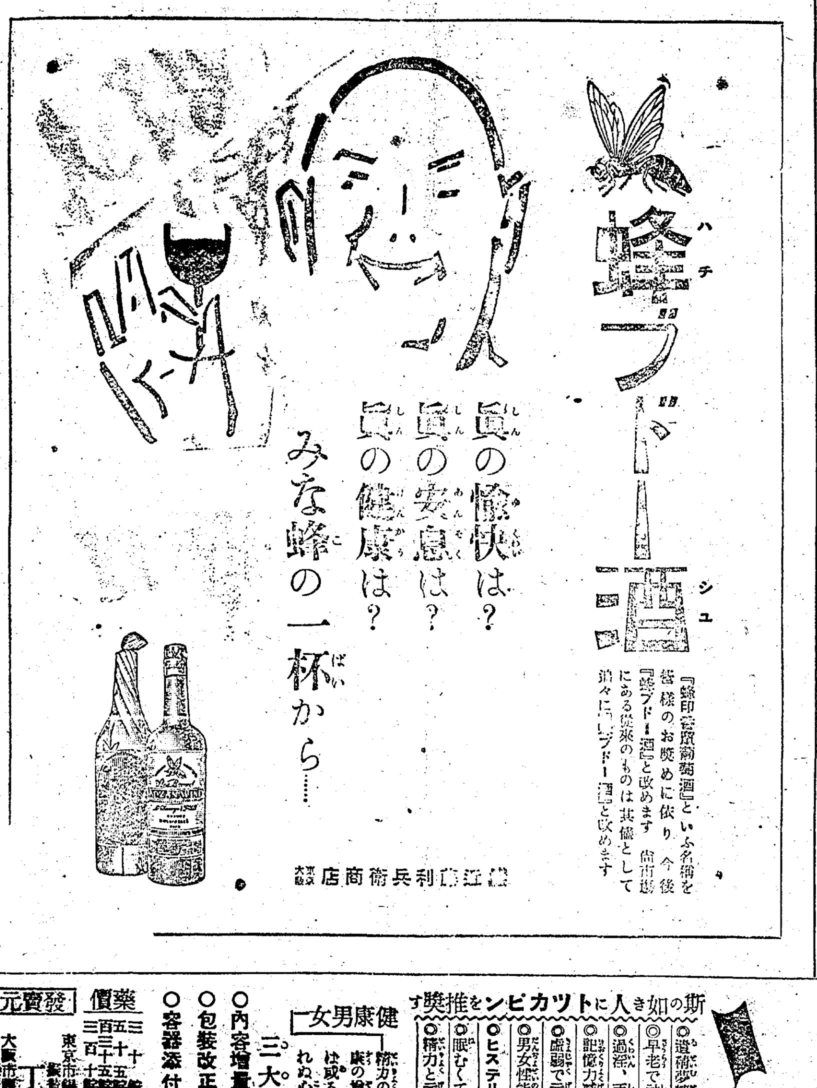
登録商標
釀造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話（營業部一〇番　釀造工場長二七番）
振替東京一九七五五番
東京支店
上野車坂町四三
電話長下谷五七二二番
振替東京六八三三二番

東京の三越來る

七月二十六日、二十七兩日（午前八時半より午後五時半まで）
平町南町元郡會議事堂に於て
呉服、太物、雜貨、洋品、食糧品、特價品　陳列會

毎々格別の御引立を辱し有難く御禮申上げます。今般呉服太物雜貨類を豊富に取揃へ陳列販賣致します。何卒御來觀の程願上ます

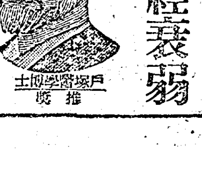
三越呉服店


蜂ブドー酒
眞の愉快は？
眞の安息は？
眞の健康は？
みな蜂の一杯から……

『蜂印香竄葡萄酒』といふ名稱を皆樣のお奬めに依り今後『蜂ブドー酒』と改めます　尚市場にある從來のものは其儘として追々に『蜂ブドー酒』と改めます

東京大阪　近藤利兵衛商店

強精　生殖機
腦神經衰弱病



一回一錠

トツカピン

斯の如き人にトツカピンを推奬す
◎遺精夢精で身體が弱わる人
◎早老で神聖なる性交不結果
◎過淫、手淫で頭がボンヤリ
◎記憶力減退し根氣の淺い人
◎虛弱で元氣なく精力ない人
◎男女性能缺乏感覺減少の人
◎ヒステリーでイラ〱する
◎眠むくても眠むれぬ不眠症
◎精力と元氣と健康を欲い人

健康男女―精力の消耗補給と元氣健康の增進劑として常用せば或る何者か得た樣な言はれぬ心強さを體感す

三大改善。
○內容增量＝税法改正により一錠以上二割增
○包裝改正＝世界的販路の見地より愛用者奉仕の爲
○容器添付＝五圓以上ニツケル製攜帶容器付

藥價
三十錠　三圓
五十五錠（攜帶容器付）五圓
百三十錠（同）十圓
三百十錠（同）廿圓

發賣元
東京市銀座新肴町八番地　振替東京七二二一番
丁子堂藥房
大阪市西區立賣堀北通三ノ九　振替大阪一〇六番

坑夫組合聯盟の態度に義憤した大倉無煙自力會

彼は國家の存在を否定する

質問、回答書の內容

茨城縣多賀郡磯原大倉無煙炭礦所屬從業員より成る建國勞働自力會は皇室中心主義を標榜し我が建國の精神に基き國家の隆昌と產業の發達を主眼に健全なる勞資協調の礎を堅めようとの主義綱領の許に本春設立以來鋭意目的の達成に努め彼の日本坑夫組合を初め挽近一種の流行ものの如く跋扈する左傾團体を尻目に克く之れ等を彈壓して遺憾なく之れが爲め日本坑夫組合の勢力極度に衰ひ片影を全く同礦より沒するの日も近きにあるものの如く觀られてゐる、而して今次友邦支那の動亂に對し日本坑夫組合並に各左傾團本部は動亂を是認し寧ろ側面から之れを助長煽動するが如き態度を採りつつある旨這般東京朝日新聞に掲載されたので之れを知つた大倉無煙勞働自力會では無謀極まる坑夫組合の態度にあきたらず此の程同組合に對し

質問書

隣邦支那各地の動亂は遂に南京に於ける帝國領事館事件となり延いては我が同胞に對する迫害と化し生命の危機と財產の掠奪とに日夜戰くものありしは直に死に勝るの屈辱に外ならず此の如き一大不祥事に對し國論漸く沸騰せり、然るに去月七日發刊東京朝日新聞紙上に於ける『支那の革命と我が無產政黨』と題する揭載記事に就て觀るに日本勞働組合同盟會の意見としては只管對支絕對不干涉主義を標榜し且つ支那自体の革命は一衆の意見に依りてのみ如實に決せらるべきものにして所謂左傾右傾の何れかに非らざる可らずと唱導し前揭の侮辱的慘害に對しては一片の義憤をも吐露せる處なかりしは眞に本會々員一同の怪訝に堪へざる處にして且つ神州國民の等しく慨嘆に耐へざる處なりと信ず(中略)蓋し吾人は斯の讃美すべき觀念に基き這般の變事に對しては啻に彼等暴徒の殘虐を痛憤し國辱に激昂するのみならず我が國民としては當に進みて此の非違を徹底的に膺懲糺彈せざるべからず(中略)此處に質問書を呈し其の眞想を審にせんとするものなり

諸子之を諒せよ

大倉無煙炭建國
勞働自力會

日本坑夫組合支部御中

なる然かも我が國民の共に憂憤せざる可らざる當然事に對し冷淡にして寧ろ事態を益々混亂に誘導すべく側面運動をなしてゐる日本坑夫組合聯盟本部に對し質問書を發したるに對し日本坑夫組合は—

回答理由

(前略)即ち彼等は此大運動の途上に偶發した南京に於ける傷害事件を提へて民衆を不當に煽動し以て大量的出兵の口實を構はんとして居る而かも支配階級に誇大なる南京事件の宣傳と相待つて近時民衆の間に國民黨の內紛を云々して國民黨と共產黨とに分離して是を是非するの說漸く盛んである、而し吾等の國民革命運動支持は其運動の主力が純粹國民黨であると共產黨にあるとを問ふもではない國民革命運動が支那四億の民衆の國際水平運動であり解放運動である限り之れを支持するのは無產階級の當然の義務であるそれは階級的民族自決であり武力主義に對する協同戰線である、我が組合は以上の見解に基き國民政府即時無條件承認を我が政府に要求するものです

茨城第二支部

建國勞働自力會御中

斷然排擊すべき非國民的言動

吾々は此の理非を辯せよ

呆れた坑夫組合

上述の如く大倉無煙炭礦建國自力會が發せる質問書に對し齎らした日本坑夫組合の回答書なるものを冷靜に觀れば、そは餘りに危險無謀なる一片の囈語であつて吾々國民は絕對に首肯し得ないものである、即ち坑夫組合の回答理由書によれば『支那今次の動亂は支那四億の民衆の**國際水平**運動であり解放運動にして無產大衆の意志によつて現實に決定されべき國民運動であるが故に、その前には假令ば在支邦人が如何なる暴虐を被るも一顧の價値なきものであるに拘はらず政府は武力干涉を敢てして憚らず南京に於ける傷害事件を提げて民衆を煽動し大量出兵の口實を構はんとしてゐる』と極言してゐるが是れ明かに南京事件の如き暴虐を慫慂したものである、一少部分の南方政府に籍を有しマルクスの唯物主義を以て**人類最高**の幸福なりとする者以外の支那四億の大衆は、國家の何たるを知らぬ無智なる國民にして隨つて今次の動亂が彼等の觀る如き支那四億の民衆の國際水平運動なりと觀る事は出來ない、假りに坑夫組合の言ふ如く百步を讓り此處に出發した動亂であるとするも直ちに在支外人の生命を迫害し財產を掠奪する等の暴虐に對しては政府は無力なる北京政府の手に動亂の鎭撫を俟つよりは積極的に我が國家講成の分子たる在支邦人の**生命財產**を擁護せねばならぬ當然の手段である出兵に對し之れに反對し袖手傍觀すべしとなす坑夫組合の主張は我が國家の存在を否定するものにあらざれば事理を解する能力なき者の言であつて實に非國民的態度であると斷言するに憚らぬものである、斯くの如き危險分子の宰配する日本坑夫組合が若し橫暴をほしいままにされる時は社會國家は根本より**潰滅の外**なき非常時に立ち至る事を知り吾々善良なる國民は斷じて坑夫組合の經察盲動に誤られる如き事のないよう充分の警戒を必要とすべきであろう

片端から征伐する

黑標付きの不良

多くは中流家庭に

平署管內で百名

平警察署のブラツクリストにのつてゐる不良少年、小女の數は彼れ是れ百名に達してゐるが右について樫村平署長は『家貧しくして孝子出づ——と云ふたとへの樣に貧家から出る不良少年は極めてまれである、多くは**中流以上**の家庭からで軟派硬派また兩派を兼ねた者もある十八、九から二十二、三歲位までは奇をこのみ思想の變化の最もはげしい時代であるのでこれ等の少年を善導にかへす可く努めてゐるのである、或る相當の家庭の父親が自分の息子は善良な息子であると信じ他にもそれを廣言してははからなかつた處息子は不良少年の**團長格**であつたのに驚いたと言ふ話しもあるのも最近あつた話しである母親が息子が毎夜遲く歸へつて來るそれに夕飯などは家庭で食つたことがない母親は毎夜息子の歸へつて來るのを待つて遊び先を尋ねたが息子は一言も語らずかへつて前にもまして家をあける樣になり遂に取り返へしのつかない間違をし出かしてしまつた、不良少女の監督は警察よりも家庭でせなければならない』云々と語つてゐた

海水浴場に 不良が出沒

念入りな惡戲

別項不良青少年の活躍に對し縣下全般的に取締ることゝなつたが四倉、小名濱の兩海水浴場を控ねてゐる小名濱警察署では今からその取締に努めてゐるがこの不良のうちでも軟派に屬する性慾一點張のうちでも比較的無害な遊廓通ひの連中にも近來見逃すことの出來ぬ現象が現れ平町鎌田町遊廓に登樓するもののうちには高橋是淸、山本達雄、大杉榮、齋藤實等名士の名儀を假名としてゐるものを見受けるので平署では近くこれ等不良漢を嚴重に取締るべく名案立案中とある

平驛いよ〱 改築準備急ぐ

設計に多忙

平驛は毎年約百三十萬人の乘客あり其れに伴ふ貨物の集散年と共に增加し驛構內は極度の狹隘を感じてゐる即ち現在の待合室は僅かに六十三坪であるのに一日平均の乘客三千六百人、降客三千五六百人で之れを同驛より一日三十回列車が發着するとして一列車平均百二十人の乘客があり一日中午後一時より五時迄の間には一列車五百人以上の乘客を常とし爲めに待合室の如き身動きもならぬ雜沓を呈し不便窮窟極りないので愈々改增築の急を叫ばれ過般主務省に對し改築方を申請中であつたが更らに近く同驛工作課主務省に對し改築促進運動をなす事となり新築驛の設計その他に忙殺されてゐる

夏蠶の掃立てに不適當な天候

平均溫度の保持に

郡下で三千餘枚

石城郡下の夏蠶は去る九日頃から三四日間のうちに大部分掃立られたが掃立枚數は前年と大差なく三千五百枚前後の見込みである、最近石城郡地方は天候不順のため夏蠶の掃立には最も不適當なので養蠶同業組合では技術員を派して目下それ〲掃立の前後の注意をさしめてゐるが郡下の夏蠶は山間部の比較的氣温冷やかな三坂、澤渡地方が最も盛んである關係上特に昨今の天候では蠶兒發育に非常な支障を來してゐる右に關して組合技術員は『丁度不順な天候に差しかゝつて掃立と同時に保溫、乾燥設備を完全にすること第二に給桑に際してはぬれ葉等を用ひざる樣注意することが肝要で特に晝夜の溫度に激變あるから平均溫度を保持する樣に努めてもらいたい』云々とかたつてゐた

惡い商人が出て 吊上る兎の肉

副業の發達も殺がれる

郡下の養兎事業

石城地方には最近農家の副業として養兎が盛んに行はれ郡農會でも極力獎勵に努めてゐるが兎皮及び兎肉の利用も漸次普及され平町にも兎肉料理販賣が現れるに至つたので同地方における養兎熱はますます盛んとなるのでこの間に不正商人に種々宣傳し種兎分讓を口實に不當の利益を占めて居るものや仲買人の思惑買等で市價以上の高値を呼んで居るが普通一箇年飼養の在來種六七百匁改良種一貫二百匁肉として三割乃至四割止まりこれが小賣は四十錢より六十錢の間に賣るとしても一圓四十錢から二圓程度のもので一兎三圓乃至三圓五十錢の相場に惑はされ高價に購入することは注意せねばならないが女子供にも容易に飼養し得られ肥料も農作物に有效であるため今後ます〱發達するものと見られてゐる

平町に殖ゆる 魔性の女

平署嚴重警戒

平町には最近カフエー乃至小料理が世の不景氣とは反對に雨後の筍の如くに續々と殖へて來たがカフエー乃至小料理屋には一軒に三名乃至五六名の女給や女中と名のつく女が雇はれてゐるがこれ等多くの女たちは皆飲食店酌婦の行爲を見習つてか通行人の袂を引き酌婦同樣の手段を敢てなして得々としてゐるものが漸く多くなつて來たので平署では早くも手を廻し近く一齊に不良女給を檢擧する方針であると

坑夫組合解散

大倉無煙で近く

大倉無煙炭礦に散在する日本坑夫組合は過般湯本町入山炭礦に於て坑夫組合側が爭議に慘敗して以來極度に不評判となり組合の名は全く坭中に墜ちて今や再び起つ能はざる悲境に立つたので近くは坑夫組合の解散式を擧げる外なき運命にあると

炭勝七 さがりの段

磐炭五太夫戲作

今頃は炭七さん何處をウロツキ御座らふぞ今更ら愚圖るじやなけれども假病といふも詮ないならば堅い切羽も合棒にめんじ賞典かゝさぬ炭勝どのどくにも入坑さしやんしたら炭七さんの思想も直り解備などを喰ふまいに思へば〱おれ達は今年の春の爭議にいつそ馘首になつたならかうしたサガリは出來まいものすまぬこととは知りながら未練に手當をあてにして上金取りは叶はずとも喰いさへすればと我慢してこれまでグレたが御身の仇今の思ひにくらぶれば會計前におれ達が這入る心がつかなんだどうしてくりやる炭七どのわしやこのやうに悔んで居ると怨みの泣きごとクダ〱と夫を責める山の神見るも笑止の次第なり。デンデン〱〱〱

平倶樂部優勝

鎧袖一觸强敵を屠つて

縣下庭球大會で

平庭球倶樂部では昨二十四日午前八時より須賀川第一小學校コートに開かれた須賀川町立學校同窓會主催の縣下庭球大會に出席したが出場組數百二組の多數に達し各軍懸命の奮鬪を續けたが平軍大內、根本二名の健闘物凄く第一、二回戰不戰三回戰で三對一を以て石川中學を屠つたのを皮切りに四回戰で三對二で郡山セントラルを破り五回戰で三對一で安積中學を準決勝で三對零で旭クラブを一蹴し愈々決勝戰に於て郡山セントラルと對坑し連勝の平軍の意氣は恰も鎧袖一觸三對零を以て平大內根本組最後の優勝榮冠を得た

鮫川燈籠流

熊野神社例祭で

錦村大倉縣社熊野神社大祭は來月一日六ヶ年大祭を執行田人村社御齋所山熊野神社の御輿渡御、屋臺山車及社內の獻額品評會及同夜は鮫川に於て燈籠流仕掛花火等ありて空前の賑ひであろうと

非常な人氣の 三越陳列會

愈々明日から

東京三越吳服店陳列會は既報の如くいよ〱明二十六日より二日間平町元郡會議室に於て開き即賣する事となつたが今回同店の來平は販賣を目的ではなく標準相場を定めたいと云ふ希望からの陳列會であるが三越の來平は初めての事であり農村方面からも非常な人氣であるから豫期以上の賑ひを呈するものの樣に見られてゐる

公賣公告

東京市北豐島郡南千住町大字地方橋一二五一
滯納者 鳳城炭礦株式會社

第一號
福島縣石城郡山田村地內福島縣採掘登錄第七二號石炭鑛區拾七萬壹千參百坪採掘鑛業權外六ヶ所鑛區坪數百五拾七萬六千四百四拾八坪採掘鑛業權

第二號
福島石城郡植田町大字植田字舘山二ノ二
山林反別九畝拾六步
外山林原野畑參百四拾筆

右國稅滯納ニ付前記財產昭和二年八月九日平稅務署ニ於テ入札ヲ以テ公賣ニ付ス買受望ノ者ハ當署ニ就ニ詳細承合ノ上入札ヲ爲スヘシ

右公告ス

昭和二年七月廿二日

平稅務署長

湯屋業者召集

平署では今廿五日午前十時同署樓上に管內の湯屋營業者を召集し改正湯屋營業規則の徹底方について樫村署長から種々注意を發する處があつた

受驗準備講習

けふから十五日間

平町磐城中學校同窓會主催第四回受驗準備夏期講習會は今廿五日から十五日間同校に開催し初めたが科目は英、國、漢、數にして講師は(英)舘野(數)梶原(國)山崎宣(漢)山本の各磐中(數)東大理科大學桐谷文雄(英法)坂本德太郎氏で受講生六十名であると

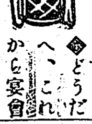
錦校のラッパ

錦村

錦村小學校では青年訓練所及小學兒童通學團に對しラッパを以つ引卒する事となり廿日より植田町小濱柳葉重藏氏をラツパ教師として招き熊野社內でやつて居るが頗る成績がよいと

喫煙室

二十日の朝小名濱問題や何かで上京する高岡元代議士と水戶へ行く白井磐銀專務や植田から乘り込んだ安島元代議士や金成植電社長の名士揃ひが一しよになつて車中の談話漸くあぶらが乘つて來るそのうち白井磐銀專務が何かの事で『高岡さんも案外詳しいんだなあ——』と感心さも皮肉ともつかない半疊を入れると高岡さん即座に安島さんを指して『ここか敎へるもんだから——』と巧に元から知つてたんちやない所以の責任廻避をやるので溫厚な君子安島さん敢て雪寃？の必要もない、と云つた調子で只微苦笑。



◇どうだい、これから宴會へやつても、ナニも高い錢を拂つて藝者なぞ呼ぶより美人のポスターでも眺めて蓄音機をかけてメートルをあげる方がイクラ安直か知れないせ、ホントに此頃の藝者と來ては客の前に來て据つてるだけで、話の一つもできずお酌もしないでお客が手酌で獻酬してるのを、平氣で團扇を使つて見てるんだから仕末にイケナイよ、そんでゐて言ふ事が好い、妾サイダーより平野水の方が好いわだと、フフンだ◇オイ、三年たてば赤ン坊も三つになるつて、モウ一本になつたのは目出度いね、だが一本の姐さんが惣模樣でもあるまいせだつて此方が若いでしょうつてなるほど若いよ、八千代お前は瘦せてゐること去年と同じだよ。

明日の天氣
北東の風
曇

資本金	八五〇、〇〇〇、〇〇〇
諸積立金並ニ繰越金	八三、〇〇〇、〇〇〇
諸預金	六五四、二一〇、〇〇〇
諸貸附金	九〇七、〇八六、〇〇〇
全國爲替取引先	參百參拾五個所

株式會社磐越銀行

決算報告

改稱第拾八回
昭和貳年上半期
貸借對照表

負債之部	
資本金	八五〇、〇〇〇、〇〇〇
諸積立金	六七、五〇〇、〇〇〇
諸預り金	六五四、二一〇、三七〇
爲替借及借入金	五三、五四九、四二〇
未經過割引料	六、四六一、八〇〇
未拂利息	八、六〇四、三三〇
未拂割賦金	七七三、六四〇
當期純益金	二四、五三七、三四〇
合計	一、六六五、六三六、九〇〇
資産之部	
未拂込資本金	六〇四、五〇〇、〇〇〇
諸貸出金	九〇六、九一四、五〇〇
割引手形	二、四〇三、〇四〇
爲替貸	一三、一八四、八六〇
國債及所有物	七七、一五八、〇五〇
預ケ金及現金	六三、四六六、四五〇
合計	一、六六五、六三六、九〇〇

右之通り候也

昭和貳年七月

株式會社磐越銀行

專務取締役頭取	中野甲藏
取締役	西岡重好
同	小野靜重
同	薗田嘉藏
監查役	明智淺吉
同	大谷喜作
相談役	鈴木堅助
同	森本盛一
支配人	瀧澤俊平